

「タデ類」や「シロザ」が多発している大豆圃場の防除体系

作物部

1. 背景・目的

県内の大豆圃場で発生が多く問題となる雑草として「タデ類」や「シロザ」があります。

なぜ、これらの雑草の発生が多いのか、その原因と対策について検討しました。



タデ類



シロザ

2. 雑草防除のポイント

明らかとなったポイントは次の3つです。

- (1) 大豆の葉が茂る前の早めの茎葉処理除草剤散布が雑草に薬液がかかりやすく効果的です。
- (2) 中耕・培土は新たな雑草発生を促すため、早めの中耕・培土はその後の作業の遅れなどで雑草が残るリスクが高くなります。
- (3) 大豆茎葉による遮光で雑草生育を抑えられるようになるのは、湿害や病害のない通常の生育をしている場合、大豆開花期ころになります。これらを踏まえて、従来より改善した防除体系を検討しました。

3. 改善した防除体系の効果

下図のとおり従来の防除体系の作業時期を「早めに除草剤散布」、「その後に中耕・培土作業」に改善した防除体系を比較しました。

大豆の播種が5月下旬～6月上旬の場合の作業時期

体系	5月		6月		7月		8月	
	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬	下旬	中旬
従来	播種・除草剤散布				中耕培土	除草剤散布	開花	遮光効果
改善	播種・除草剤散布		除草剤散布		中耕培土		開花	遮光効果

その結果、改善した防除体系は従来に比べて、雑草の発生本数は約50%低減、重量は95%低減することを確認しました。

新たな機械の導入は不要で、今、使っている機械の作業の順番と時期を変えるだけで雑草防除の効果が高くすることができます。